

保存 3 年

【SAMPLE】

年 月 日

報告書（証明書）番号

石綿障害予防規則 第3条第5[※]項に基づく
事前調査における石綿分析結果報告書（証明書）
〈定性分析方法 1（偏光顕微鏡法）を想定した様式〉

※石綿障害予防規則等の一部を改正する省令（令和2年 厚生労働省令第134号）による改正後の石綿障害予防規則の条項であり、令和5年9月30日までの間は第3条第4項に読み替えること

殿

貴殿（貴社）より委託を受けた石綿分析の結果は、下記に記載したとおりであることを証明します。
ただし、本分析の結果は、入手した試料の範囲に限定させていただきます。

記

実施した分析方法	定性分析方法 1（偏光顕微鏡法） ※アスベスト分析マニュアル第3章
----------	-----------------------------------

1. 分析を実施した石綿分析機関等

名 称		
所 在 地		
信頼性保証／品質確保の認証等	日環協（試験所）（JIS A 1481-1 ○○年度 合格）	
その他（作業環境測定機関登録等）		
連 絡 先	TEL：	FAX：
分析調査者氏名	分析調査者資格取得状況	民間機関による技能評価の取得状況
○○ ○○	○○協会 分析調査者講習修了（○○年度）	日環協（技術者） （JIS A 1481-1 ○○年度 合格）
●● ●●	※	日測協 （JIS A 1481-1 合格 認定No. ●●）

※令和2年基発 0901 第 10 号記の 1 に定める資格のいずれかを記入する。

例：日測協「石綿分析技術評価事業」A ランク（評価区分○）
日環協「アスベスト偏光顕微鏡実技研修」修了（○○年度）
日環協「建材中のアスベスト定性分析技能試験」合格（○○年度）
日環協「アスベスト分析法委員会認定JEMCAインストラクター」
日本繊維状物質研究協会「建築物及び工作物の建材中の石綿含有の有無及び程度を判定する分析技術」合格（○○による分析）

2. 分析を実施した年月日

分析実施日	年 月 日 ～ 年 月 日
-------	---------------

3. 物件名称

名称	
----	--

4. 不検出確定手順の分析実施の有無

実施有り	実施無し
------	------

5. 試料採取履歴

建物、配管設備、機器等の 名称及び用途	名 称		
	用 途		
施行年及び建築物への 施行などを採用した年	年 月 日		
採取箇所の指示(判断)者の 所属、氏名、資格			
採取者の所属、氏名、資格			
試料No.	試料名称	採取場所・建材の種類等	別添 データNo.

6. 分析結果

試料名称	偏光顕微鏡による定性分析結果		石綿以外で 確認された繊維	別添 データNo.
	石綿の種類	推定石綿含有量分率		
		不検出・検出・ 0.1-5% ・ 5-50% ・ 50-100%	有・無	
		不検出・検出・ 0.1-5% ・ 5-50% ・ 50-100%	有・無	
		不検出・検出・ 0.1-5% ・ 5-50% ・ 50-100%	有・無	
		不検出・検出・ 0.1-5% ・ 5-50% ・ 50-100%	有・無	
		不検出・検出・ 0.1-5% ・ 5-50% ・ 50-100%	有・無	
		不検出・検出・ 0.1-5% ・ 5-50% ・ 50-100%	有・無	
		不検出・検出・ 0.1-5% ・ 5-50% ・ 50-100%	有・無	
		不検出・検出・ 0.1-5% ・ 5-50% ・ 50-100%	有・無	
備考				

注 1) 石綿の種類項目には、次の記号で記載しています。

Chr：クリソタイル Amo：アモサイト Cro：クロシドライト

Tre：トレモライト Act：アクチノライト Ant：アンソフィライト

注 2) 推定石綿質量分率の報告区分については JIS A 1481-1 を参照のこと。

注 3) 推定石綿質量分率の報告“検出”は分析中に繊維が 1 本又は 2 本だけ検出されたことを示します。

注 4) 『石綿以外で確認された繊維』の例としては、ロックウール、グラスウールなどの人造鉱物繊維（MMMF）、セルロース（CE）、合成有機繊維（SYN）、タルク（TA）、ウォラストナイト（WO）、ネマライト（繊維状ブルーサイト、NE）、石こう（GYP）、セピオライト（SE） などがあります。